



【ダンテ・マッツォーラ】

イタリア・ミラノに生まれる。

ミラノ・ヴェルディ音楽院ピアノ科及び作曲科を首席で卒業。バルセロナのリセオ大劇場でオペラ指揮者としてキャリアをスタートさせた。

これまでに、カタニアのベッリーニ劇場、ヴェネツィアのフェニーチェ劇場、ヴェローナの野外劇場をはじめとして、その他多くの劇場で活動し、1969 年以降はミラノ・スカラ座に活動拠点を置いている。

チェンバリストとして、スカラ座弦楽合奏団「リ・スカリージェリ」や「スカラ座六重奏団」で長年にわたって活動し、バロック音楽の広大なレパートリーを持っている。

オペラを知り尽くしたオーケストラ指揮者として、ミラノ、モデナ、マントヴァ、ピサなどイタリア国内の数多くの都市で、また、客演指揮者としてペルー共和国のリマ劇場、アテネのメガロンコンサートホール、サンクトペテルブルグのフィルハーモニーホール、ソウルの芸術センターなどで活動を展開している。

フィエーゾレのロマーノ劇場財団が企画した「モーツァルトとダ・ポンテ」「モンテヴェルディ」において指揮を行い、イタリア、イギリスそしてヴェルサイユ宮殿の王室劇場でも大成功を収めた。

日本では、長年にわたり、東京、大阪、沖縄などの大学から招聘されているほか、最近では京都室内交響楽団と共演している。

また、数年にわたり、リッカルド・ムーティーの右腕としてザルツブルグ音楽祭に参加。さらに世界的な大歌手たちのピアノ伴奏者としての才能豊かな活動はオペラのみにとどまらず、その限らないレパートリーはイタリア、ドイツ、フランス、スペイン歌曲に及び、彼らの録音制作にも参画している。

最近では音楽監督として、マドリッドのカルロス三世大学と共同してオペラ研修セミナーを開講し、また、ノルウェー・オペラ劇場の芸術家たちへ研修を行うためたびたび招かれている。

ミラノ・スカラ座アカデミーにおいて指揮者、コレペティートルを育成するコースおよびオルヴィエート、ノルウェーのノードフィヨルドエイド、スペインのダロカで教官として教鞭を執っている。

2007 年より、生野ムジカ音楽監督として、指揮者・歌手・ピアニストのためのマスタークラスを日本で開催している。

2011 年より、プロとしての能力を育成するためにヨーロッパ同盟国基金(FSE)から資金供与された StudiOpera プロジェクトにおいて、ブカレスト国立歌劇場の教官(歌手・ピアニスト)に指導を行っている。

昭和音楽大学客員教授。



【多田 佳世子】ソプラノ

大阪音楽大学卒業後、卒業演奏会に出演。第12・13 回日伊コンクール入選。オペラでは「魔笛」のダミー・パミーナ、「ルサルカ」の公爵婦人、「カルメン」のミカエラ、「蝶々夫人」のタイトルロールを演じる。日本演奏連盟推薦演奏会に出演。

1991年、イタリア・ブッセートにおいて、ヴェルディ国際声楽コンクール第3位入賞。同年、加古川市民さわやか賞受賞。1992年、イタリアにおいてロータリークラブ主催の「蝶々夫人」全曲演奏会に出演。ヴァルセージア誌より絶賛を浴びる。クレモナ市にてコンサートに出演。1994年3月、韓国のソウルオペラハウスで「蝶々夫人」を演じ、大成功をおさめる。同年9月、故郷加古川にて第4回リサイタルを開催、好評を得る。

1995年5月、ベルガモにてコンサートに出演。また、ミラノ・スカラ座にてリッカルド・ムーティ指揮のスカラ座フィルハーモニーコンサート「カルミナ・ブラーナ」に参加。同じく5月、パルマのテアトロ・レージョにてコンクール入賞者による演奏会に出演。6月、ミラノのサン・マルコ教会にて、スカラ座フィルハーモニーコーラスのオペラコンサートに参加。7月、パルマにて「ラ・ボエーム」のタイトルロールでデビュー。1996年2月、スイス・ジュネーブにて3人のスカラ座歌手と共演。ル・マタン誌より絶賛を浴びる。12月、メラーテ市の教会にてパヴィアオーケストラとオラトリオコンサートに出演し大成功をおさめる。

1997年1月にCD「Sogno」(夢)を録音し、記念リサイタルを開催。CDはイタリア国営放送Raiおよびスイスにても度々放送され高い評価を得ている。

同年5月、神戸文化ホールにおいて「ラ・ボエーム」のミミを演じる。

1998年再びスイスのジュネーブにおいてコンサートに出演。1999年11月にはミラノのコンセルヴァトリーオでモーツァルトのオペラ「アルバのアスカニオ」の女神役を好演。最近では「没後100年のヴェルディに献呈する演奏会」に出演し大成功をおさめるなど、コンサートソリストとしてもベートーヴェン、ブルックナー、ヴィヴァルディ、ロッシーニなど幅広いレパートリーを持ち活動を続けている。

2002年2月ヴェルジャータにて再びコンサートの依頼を受け、大成功をおさめる。イタリア各地で積極的にコンサート活動を繰り広げており、確かなベルカント唱法に基づいた深い表現力は高く評価されている。

2004年にCD「Tosti D'Annunzio Romanze」(ダヌンツィオの詩によるトスティ歌曲集)を出版し大絶賛を博し、イタリア国営放送Raiで放送され、日本でもCD出版記念コンサートが催された。またこのCDを耳にしたイタリアを代表するバリトン、レオ・ヌッチ氏の誘いでアンサンブル・サロット・オットチェント(Ensemble Salotto' 800)と度々共演し幅広いファン層から支持されている。

同年、マドリッドのカルロス3世大学(Università Carlos III)やオスロのデン ノルスケ劇場(Den Norske Opera di Oslo)にTecnica Vocaleの教授として招聘され、現在に至るまでスペインでのダロカマスタークラス、ノルウェーでのノルドフィヨルダイドで意欲的に後進の指導にもあたっている。

2005年、2006年にはオルヴィエートで開催されたサマーフェスティヴァル「スパツィオムージカ」リサイタルを開催、またノルウェーでもノルドフィヨルダイドの音楽祭に出演している。サラゴサのフォロ ロマーノ劇場でのガラコンサートにも出演。ローディやコンスタンツ(ドイツ)での歌とオーケストラによるコンサートでは再びレオ・ヌッチ氏と共演し高く評価されている。

2007年より生野ムジカ ヴォーカルコーチ、演技指導を担当。

イタリア ノヴァラのコッチャ劇場において、ロッシーニの小荘厳ミサのソプラノソロを務める。

2008年から2010年にかけて、イタリア オルヴィエートのマンチネッリ劇場、加古川市民会館においてリサイタル開催、イタリアのヴァレーゼ、ローディにて再びヌッチ氏と共演。また、故郷加古川にて京都室内交響楽団と共演、等々

